

## ～京都 OHANA プロジェクト企画第一弾 報告書～

去る3月下旬に、被災地で活動をされているボランティアメンバーより、「指定の避難所に物資を取りに行くために、指定外の避難所、自宅避難民の方々の足として自転車のニーズがある。この方々にとって、自転車は生活をしていくうえでの必需品だ。」という報が、京都に舞い込みました。この報を受けて、各地の行政にも、自転車の受入、運搬ができないか打診しましたが、自転車の受け入れを行っている窓口はありませんでした。このため、京都の有志メンバーが呼びかけに応じ、急きょ自分たちで自転車を送る計画を立てることになりました。去る4月7日（木）～4月10日（日）にかけて下記の活動を行いましたので、ここに報告させていただきます。

1) 日時 4月7日（木）～4月10日（日）

2) 回収場所 京都大学 吉田南キャンパス内

3) 回収品名 自転車

4) 回収台数 124 台  
(内 10 台は修理不能)



5) 輸送方法 レンタカーによる輸送

6) お届け先 石応禅寺：5台 大槌・城山体育館：23台  
鵜住居・新川原地区の方々：27台  
金沢地区・金沢（かねざわ）小学校：25台 安渡小学校：10台  
釜石マンション：6台 その他：18台



7) 第一弾企画の収支

<収入>

サクセスランニング義援金 51,200 円

OHANA プロジェクト第一弾企画期間中に集まった義援金 27,036 円

後日、ラフェリア口座に振り込み頂いた義援金 30,000 円

バイオディーゼルアドベンチャーの山田周生さんからの義援金協力金 73,000 円

合計 181,236 円

<支出>

レンタカー代 73,500 円

ガソリン代 63,799 円

ドライバー食料 1,936 円

宿泊費 3,000 円

シール代 10,500 円

第一弾企画、食事、差し入れ、お礼等 14,500 円

合計 165,435 円

次回活動への繰越金 15,801 円

8) 協力頂いた会社 及び個人名 (順不同 敬称略)

回収場所協力 : 京都大学

岡真理 (京都大学大学院教授)

自転車整備協力 : BBハウス・マルニ 京都自転車販売(株) (コンズサイクル)

(株)マッサエンタープライズ (株)きゅうべえ (株)岩井商会

京の貸自転車いのうえ家 大日産業(株)

告知協力 : (株)エフエム京都 朝日新聞社 京都新聞社 (株)YASU

野田隆喜 (向日市議会議員) (株)きゅうべえ

自転車積載協力 : (有)中村商店

部品提供協力 : (株)岩井商会 シンコー(株) 吉富ワイヤー製作所 野口商会

センタン工業(株) 西田金属製作所 松洋製作所 (株)きゅうべえ (株)シルベスト

活動費協力 : (株)MID 山田周生 (バイオディーゼルアドベンチャー フォトジャーナリスト)

義援金にご協力頂いた皆様

その他協力 : 守田敏也 京都府トライアスロン協会 京都サイクリング協会

京都府自転車軽自動車共同組合 ダスキン アイアム・フクエ

NPO法人フリーダム (株)YASU いのうえ家 サイクルヴィレッジジャムジャム

阪神高速道路(株) 馬谷修(京都大学学生) 西尾治 (株)La・Feria

現地アドバイザー : 山田周生 (バイオディーゼルアドベンチャー フォトジャーナリスト)

## 9) 概要・総評

「今すぐ自転車が必要」というニーズに応えるべく、早急に行動にうつした計画のため、準備・告知期間が多くはとれず、常に課題を抱え、解決しながらのプロジェクト進行となりました。部品提供の協力を頂けたこと、回収場所として京都大学をお借りできる段取りが整ったことが、プロジェクト前進の大きな足掛かりとなり、自転車回収の募集開始に至ることができました。現地からの打診があつて、わずか6日間での突貫作業です。

告知に時間をかけることができなかつたため、4月7日（木）10台、4月8日（金）13台の回収と苦戦が続いたのですが、より大きな媒体をお持ちの(株)エフエム京都 朝日新聞社 京都新聞社に、不要自転車回収の呼びかけのご協力を頂くことで、9日（土）、10日（日）は、問合せの電話が殺到し、京都大学に自転車を持ち込む市民であふれました。通学に乗ってきた自転車を、そのまま提供して下さった方や、亡くなった父親の形見を「大切に使ってもらってください」とお持ち下さった方もおられます。

9日（土）、10日（日）をもって自転車不足は一気に解消に向かい、設定台数より24台多い合計124台の自転車を集めることができました。

また、回収と並行して進めた自転車の整備についても、自転車店が繁忙期であるにも関わらず、多くの自転車店の皆様に整備のご協力を頂くことができ、わずか2日間の間で114台もの自転車の整備をやり遂げることができました（10台の自転車は残念ながら、修理不能なものでした）。

運送の段階で、当初予定していなかつたレンタカーの手配、それに伴う費用を自前で準備する必要が出てきましたが、京都市民の皆様からの温かいお心配りにより、自主的にご寄付を頂けたこと、それでも尚足りない分については、「金銭的責任は持つ」という申し出が、プロジェクトメンバーよりあつたため、第一便を送りだす段取りを整えることができました。レンタカーへの自転車の積載も、経験豊富な自転車店が、急きょ手伝って下さり大きな助けとなりました。この他にも、京都大学の学生さんを中心に、「自転車を磨く」「整備のサポート」「自転車の誘導」「掃除」「買い出し」など、それぞれが「自分にできること」に焦点をあて、積み重ねた結果、114台の自転車は無事に被災地に向かう準備を整えることができました。4月10日の午後5時過ぎ、山中功さんの運転のもと京都を出発、一日がかりで岩手県遠野市の基地に向かい、現地アドバイザーの山田周生さんのガイドにより、自転車とともに、笑顔をお届けすることができた第一弾企画となりました。尚、山田周生さんからは、岩手県を離れる際に、山田さんが集められた義援金から、協力金を拠出頂きました。

## 10) 終わりに

現地からの連絡より、わずか1週間で行った突貫工事による第一弾企画は、成功の元に終わることができました。一週間、ご協力頂いた皆様のリーダーシップにより、それぞれの立場で、できることが積み重ねられ、そして114台の救援物資という結果を紡ぎだすことができました。そんな皆様の「できること」は、プロジェクト成功への、大変貴重な資源となりました。感謝しつくせない思いがあります。一方で、その場だけの緊急対応では、できることにおのずと限界が来ることは明らかであることも感じています。復興が長期化にわたると同じように、京都 OHANA プロジェクトの体制作り、計画、実行も時間をかけて継続していく部分が必要に思います。

今後、以下の課題について強化を図り、さらなる被災地支援を継続していきたいと考えています。関

係各位におかれましても、息の長いご協力を引き続き頂けます様お願い申し上げます。

- ① 組織：NPO 法人化をできる限り早急に行い、プロジェクトの姿をより明確にする。
- ② 資金：個人活動では限界があり、寄付、スポンサーを幅広く受け入れる体制作り  
資金の流れを明確にし、細かい経費（駐車場代、弁当代など）も支払える体制作り
- ③ 場所：高速道路 IC 付近の敷地、協力を申し出て頂いている大学、学校を有力候補  
として選定していく。
- ④ 整備体制：余裕をもった整備期間を設定し幅広く協力頂く体制作り
- ⑤ 輸送：安全に、安定して、コストパフォーマンス高く運べる物資の運搬ルートの確保
- ⑥ 受入体制：刻一刻と変化する被災地の状況を正確に把握して、相互理解のうえ、  
お互いに安心して活動できる体制づくり
- ⑦ その他：現地で不要になった自転車の扱い 防犯登録の取り扱い 等

文責：京都 OHANA プロジェクト 事務局 森拓哉

メール：moritaku@la-feria.jp